



大会宣言

私たち JR 東労組仙台地方本部は、本日、「ハーネル仙台」において第 36 回定期大会を開催し、職場からつくり上げた運動の成果を確認すると共に、「新生 JR 東労組運動宣言」を基礎に全組合員で新たな地平を切り拓く運動方針を満場一致で確認した。

この一年は正に組織現実を真摯に受け止めながら JR 東労組の未来を展望し、組織内外のたたかいを着実に進めた年であった。自己保身と官僚体質との決別をした新たな JR 東労組は、職場で奮闘する組合員の真っ当な意思によってつくり上げられた。私たちの今の姿勢を堂々と示すことによって多くの仲間が再加入をする決断に至り、JR 東労組の存在の否定から必要性を感じる組織へと変化を遂げつつある。組織力を再生する為に重要なことは、リーダーが真正面から組合員と向き合い、現実を直視し、レスポンス能力を上げ、問題解決へのプロセスを共に歩む職場運動を堅実につくることである。目指すべき将来像を明確にし、仙台地本は JR 東労組の価値を継続して伝え広め、組合員と共に歩む運動を着実に積み上げていく。

新型コロナウイルスの脅威は現在的に続いている。私たちは見えない恐怖と共存し、第 2 波に対する準備と新たな生活様式に順応しながら生活を維持していかなければならない。現場では「感染しない・拡大させない」ことを第一義に考えながら個々の対策を強化し、列車の運行を担ってきた。自宅待機やテレワーク、時差出勤、グループ分け出勤など組合員や家族の不安や負担が増幅する中で、分会や支部独自で現実に即したスピーディな対策を実行してきた。JR 東労組本部も献身的に交渉を行ったが、テレワーク等による通信環境の整備や労働時間管理の問題などの課題を多く抱えている。私たちは問題点を明確にしながら職場議論を積み上げて、現実課題を交渉等に反映していく。私たちの今後の働き方も含め、現場第一線の視点で未来を展望し、安心して働ける環境の整備と鉄道の安全を全組合員で守り抜いていこう！

「新たなジョブローテーションの実施」が始まり、地方によっては施策の趣旨や団体交渉等の議論が形骸化され、仲間と共に悩んでつくり出した自らのキャリアプランを蔑ろにされる事象が相次いでいる。仙台地本としても組合員が今後のビジョンを真剣に考え、面談等で主張してきたが、このような事象が続けば到底納得できるものではない。これまで実施されている様々な施策にしっかりと向き合い点検し、検証運動を仲間と共に更につくり出していこう！

九州地域で甚大な自然災害が発生している。私たちはこのような自然災害に対して人命を第一に考えた行動を取る事を東日本大震災で学んできた。「新生 JR 東労組運動宣言」を基礎に安全で安心して利用できる鉄道の維持、発展を目指してたたかいを推し進めていく。組合員と家族の利益と雇用を守り、命を最大の価値基軸に実践を通じた組織強化・拡大を力強く展開し、組織内外の仲間と連帯しながら真の総団結を全組合員でつくり出そう！

以上、宣言する。

2020年7月11日
東日本旅客鉄道労働組合
仙台地方本部
第36回定期大会